

川谷の地滑り、復旧工法決定は10月の見込み

地滑りの収束、いまだに確認できず

昨年3月16日に発生した主要地方道大湯高柳線・吉川区川谷地内の地滑りについての3回目の説明会が27日の午後、旧川谷小学校体育館でありました。説明したのは、新潟県上越地域振興局地域整備部維持管理課です。

説明は、現状報告と今後の予定が中心です。このなかで担当課は、「地すべりの規模を把握するためにデータが必要であり、調査をしてきたが、昨年の空梅雨、その後の少雪でデータを十分とることができないでいる。今後は融雪期の観測データなどをもとに専門家の意見を聴きながら、地滑りの解析を行い、対策工法を検討し決定していく。工法の決定は本年10月くらいの見込みだ。工事着手は令和5年度内を目指している」「対策工事の実施にあたって

は、地滑りが収まった（収束）したことを確認する必要がある」などと述べました。

説明会に参加した地域住民からは、「前回の説明会では、工事着手から完成までには2年くらいかかるということだったが、変わらないか」「地滑りの収束について、詳しく説明してほしい」などの声が上がりました。

担当課は、「工事着手後、現地で通行できるようにするには2年くらいだと見ている。ただ、ここの地滑りは、県道がらみの地滑りとしては、県内では過去最大規模であり、工事がすべて終わるまでにはもう少し長くかかるかも知れない」「地滑りは雨や融雪水が要因となって、斜面が滑り落ちる現象だ。地滑りが起こりうる状態まで地下水位が溜まっても滑らな

い、ことが確認されると収束したことになる」などと答えていました。（写真は13日撮影）



【タニギキョウ】キキョウ科の多年草。漢字で「谷桔梗」と書きます。草丈は10センチほど。山道沿いの木陰で初めて出合いました。少し湿り気があるところを好むようです。葉は互生し、円形または卵型です。小さな白、または薄紫色の花を咲かせます。花期は春から夏にかけて。花言葉は「気品」「変わらぬ愛」。写真は、柿崎区金谷にて4月20日に撮影しました。

いじめ・不登校で議員勉強会

議員勉強会が21日行われました。今回は、上越教育大学の高橋知己教授による「いじめ、不登校の未然防止にむけて」という講演でした。

高橋先生が指摘されたことの1つに、児童・生徒の要因、学校側、特に教師の要因、いじめ発見方法の不備、この3つの視点から見ることの重要さがあります。このなかでの3つ目の「いじめ発見方法の不備」に注目されていたのは新鮮でした。3つの視

点で、これまでの取組を振り返ってみたいと思います。

全国調査で、小学校では1%、中学校では5%ほどの児童・生徒が不登校になっていますが、上越市もほぼ同じ割合だということです。このなかでは学習意欲を持っている、あるいは登校意欲を持っている児童・生徒は少ないといえます。

高橋先生は、「こうした子どもたちのために不登校特例校を設置することが重要だ。県内第1号となる特例校をこの上越市内につくりましょう。議会ですべて訴えてください」と提案されました。そのために、廃校舎を活用することで地域に新しい息吹をつくりだしましょう、とも訴えられました。さらに動物セラピーについても言及され、「子どもたちが解放されるスイッチを入れてくれるかも知れません」とのべられました。いろいろな勉強になる内容でした。

はしづめ法一の活動レポート

No.2108 2023.4.30

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七五五回

春

冷たい雪の世界から暖かい世界への大転換が起こり、住む人たちに大きな喜びをもたらす。この喜びは雪国で春を迎える者しか味わうことのできないものです。

私はいつかこの喜びを歌にしてみたいものだと思いついてきました。そのためにも、この上越の大地の息吹を見事に描いたフオークソング、「久比岐の里」を歌い続けている平沢栄一さんとじっくり相談したいと思っていました。

そうしたなか、先日、私がイメージしてきた雪国の春の喜びを見事に表現した歌に突然出合ったのです。場所は直江津はライオン像のある館です。そこで行われていた「寄り道ライブ」で川合徹人さんが披露してくださいました。「春」という曲がまさに私が求めていた曲になっていました。「かんちゃん」という人の作詞で、作曲は川合さんです。

この日、川合さんは歌う前に、この「春」という曲の歌詞の元になった言葉と初めて出合ったときのエピソードを紹介してくださいました。

数十年前、斑尾高原のあるペンションで「かんちゃん」が見せてくれた言葉の数々を見て、川合さんはびっくりしたといえます。そこに書かれたものは、雪がたくさん降り積もる上越の地で人々が待ち望んでいる春そのものだったからです。川合さんは、それらの言葉を讀んで、すぐにギターでポロロンとやりました。曲が浮かんだのです。

川合さんが歌った「春」。出だしは、「やっと暖かい日差しをからだいっぱい」にでした。雪国の人々が雪の中でずっと待ち望んでいたものは「暖かい日差し」です。やさしいっぱいの表情で歌い始めた川合さんは、春の日差しを浴びながら歌っているように見えました。

歌は、長い冬に閉じ込められていた草や鳥たちにも声をかけ、春を迎えた喜びをももにし、「さあ一緒に歌を歌おう」と呼びかけます。その途中では、「悴む(かじかむ)手を擦り(こすり)合わせ暮した日々」を振り返り、日差しを体で受けて感じるぬくもりの有難さをいま一度、浮き彫りにします。

全体として、春風が大地を這(は)い、なでていくような曲の展開、流れがとても素敵でした。歌い終わった瞬間、川合さんは頭を下げながら、「二コツとしました。」

川合さんはこの歌の紹介のなかで、「この歌は『うみなり』という合唱団の人たちのコンサートで歌われた」と言われました。それで、私はその日の夕方、「うみなり」の団員だった直江津の関川誠さんに電話しました。「うみなり」で歌われた「春」という曲の作詞者は「かんちゃん」という人なんだけど、ご存じですかと。

「かんちゃん」は関川さんの友人で、大潟区湯田在住の山田護さんという方でした。川合さんが歌った「春」の感動を関川さんに伝えると、「それを聞けば、山田も喜ぶよ。すぐ電話しておまんのところに電話してもらおう」と言ってくれました。

山田さんからはすぐに電話が来ました。山田さんは青年時代に歌声喫茶などをやっておられ、高田の旧長崎屋の地下にあった「水夢」(すいむ)という喫茶店に出入りしていたと言われました。そこで当時、新潟大学高田分校へ通っていた川合さんとお会い、「春」という曲の誕生につながったことが分かりました。

この「春」は六月十一日(日)の午後、直江津の学びの交流館で行われる「くびき野フオーク村」主催のサンデーライブでも披露されるとのことです。ひよっとすれば、そこで、作詞した山田さんにお会いできるかも知れません。楽しみます。

上越の風景をやさしく描く作品いくつも

高校時代の同級生、三浦和子さんの絵画展を21日、観てきました。

三浦さんの絵は10数年前から観てきましたが、彼女の個展を観るのは初めてです。いつも感心するのは上越の魅力である山野や草花など身近な対象をあたたかく描いていることです。展示されている30点ほどの作品群にもこうした

ところがよく出ていました。今回、注目したのは雲です。妙高山などとともに描かれている雲はやさしく、とても素敵でした。

ネコはイラストを描くときに入れたものです。実際にいたわけではありません。

左は、直江津の三八市で野菜や果物などを売っている藤本商店。夏も冬も親子三人で、「はい、いらっしやい」と頑張っておられます。場所は聴信寺の入口付近です。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月19日(水)	4月26日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.070	0.067
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.050	0.057